**xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx**

**Facebook、2024.10.9 より**

友人から勧められて、

上綱　麻子『映画の切り札　ハリウッド映画編集の流儀』（星海社新書 305）

を読みました。

映画がいかに多くの人々の、いかに多くの種類の作業が、いかに多くの段階を経て、１本のフィルムに集積され、出来上がっていくのかということがよく分かりました。しかもそれら全ての段階で、それぞれの仕事が、いかに観客の目を意識してなされているのか、ということも。
同時に、自分がこれまでいかにそれらのことに無知で、無頓着で、漫然と映画を観ていたことかに気付かされました。映画鑑賞者の名に、いかに値しないかということも。
同書では、ハリウッドというアメリカ映画産業の本拠地の、現状の問題点も鋭く指摘されています。

この本を読めば、「マゴーネ」のように、監督・脚本・撮影・編集・ ナレーションを１人で成し遂げられたということ、想像もつきません。

映画の切り札　ハリウッド映画編集の流儀

上綱　麻子
（星海社新書 305）2024.7.24

**Xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx**

**田邊アツシ監督より**

御本のお話、興味深く拝読しました。　『マゴーネ』もきっと、潤沢な予算のもと、多くのプロフェッショナルの分担作業によって制作されていたら、映像コンテンツとしては非常に精度の高い作品に仕上がっていたことでしょう。しかしながら『マゴーネ』という作品にとっては、監督・脚本・撮影・編集・ ナレーションを１人でこなすという手法こそが、私のごく私的な主観を観客の皆さんと共有する上での「濃度」や「純度」を高めたのだと信じています。